

教育編成委員会の議事録

開催時：令和 7 年 8 月 26 日（火） 15：00～16：00

場所：下関福祉専門学校 3 階

1. 開会

出席者：早川 弘之（社会福祉法人 下関社会福祉協議会 在宅福祉課長）
富田 陽治（一般社団法人山口県介護福祉士会 下関ブロック長）
竹永 裕子（社会福祉法人 菊水会 福祉相談室長）
関谷 豊（下関福祉専門学校 校長）
長本 幸子（下関福祉専門学校 教務主任）
安田 富美代（下関福祉専門学校 専任教員）
廣橋 紗也佳（下関福祉専門学校 専任教員）（敬称略）

挨拶：下関福祉専門学校 校長 関谷 豊

在校生の状況報告をする。

1 年生 24 名（内留学生 7 名）

2 年生 28 名（内留学生 4 名）

※上記留学生は、全てミャンマーの留学生

来年の留学生の入学予定が、ミャンマーから 2～4 名の予定である。国家試験の制度が変わり厳しい状態が続く。ミャンマーの国の体制が、今までと違い海外での就職を抑える動きに変わってきたので、これから留学生は減るのではないと思われる。

しかし、隣接している立修館高等専修学校が 5 年前から入試に倍率もあり、その中でも福祉科がある為その学生が本校に入学するといった流れもできている。学校全体として努力しているが、福祉は厳しい状況である。しかし、福祉業界は大切な仕事なので山口県最後の専門学校になっても続けていくつもりである。

2. 委員の出欠状況の確認

全員出席の確認をする。

3. 卒業生及び在校生状況報告

別紙報告書に基づいて報告をする。

4. 今年度の教育目標

§ 1 介護が必要な対象者の特性を理解し、挨拶や礼儀を通して尊厳とは何かを考え、個々の倫理観を形成することが出来る。

1 学年：挨拶や礼儀を通し、尊厳について考えることが出来る。

2 学年：介護が必要な人の特性を理解し、その人らしさを尊重した介護を提供する中で、個々の倫理観を形成することが出来る。

§ 2 対人関係の基礎となるコミュニケーションの方法を学習し、チームの一員としての役割を理解することが出来る。

1 学年：さまざまなコミュニケーション方法を知り、チームケアの大切さを学ぶことが出来る。

2 学年：TPO を踏まえたコミュニケーション技術を駆使し、チームの一員として自覚をもって行動することが出来る。

§ 3 介護実践に必要な知識や技術を学習し、援助の根拠を理解し、専門職としての役割を学ぶことが出来る。

1 学年：介護実践に必要な知識や技術を学習し、介護福祉士の役割を認識することが出来る。

2 学年：学んだ知識や技術を実習に活かし、専門職としての役割を考えた行動をとることが出来る。

教育目標を読み上げ後、質疑応答

A 委員 § 2 のコミュニケーションとは、具体的にどんな技術を勉強されるか

1 年担任より

実習の困ったことを学生に問うと、コミュニケーションの取り方が難しいと意見があったが、非言語的なコミュニケーションも大切なことであるとその辺りの指導を行っている。

2 年担任より

実習中など、どの様にコミュニケーションをとったらいいかが分からないと言われるので、話し方や対面法の勉強などを行っている。

留学生と日本人とのコミュニケーションの考え方や態度も違ってくるので、その辺りの指導も行っている。

B 委員 今の人たちは、職員同士、利用者に対しても馴れ合いになっている。

C 委員 職員でも、仲良くなるとため口で話したりする職員がいるので、「私たちは、家族ではなく職員である」事を伝えているがあまりいうと辞める職員もいて難しい。

A 委員 今までの高齢者（利用者様）達は、戦後を生き抜いてきた方なので、耐え忍ぶ人が多い。その為、今の若者を受け入れてくれていると考える。しかし、これから的高齢者は、礼儀など厳しい世代になるのでこれからの学生は、関わりやコミュニケーションが難しいのではないかと思う。

4. 今年度の福祉と文化

別紙報告書に基づいて報告をする。

理事長

マジックを今年度に取り入れる予定。さらに、県からの要望により労働委員会からの講義を1コマ増やす予定である。

過去には、給料がどの様にうまれるかなども授業にしたことがあるが、他に追加した方がよい授業などないか？

A 委員 現状を知ると厳しいところもあり、やる気が無くなってしまう学生も出てきてしまう可能性がある為、お金の話しなどはしない方がよいのではないだろうか。

5. 各委員からの意見要望、その他

B 委員 今知的障害などの職員も受け入れているが、普通の職員と変わらないのが分かった。挨拶は、本人は出来ていると思っているが相手には伝わっていないなどその辺りの人間関係などが大切であると実感している。グレーゾーンの方が、むしろ真面目に出勤しない。その人達が介護福祉士の資格を取って同じ土俵に立ち仕事をするので、その辺り考えていかなくてはいけない。

A 委員 自分は、介護や福祉は気持ちがあれば出来ると思う。長く続けてもらうには人を幸せにしていると思いながら、仕事にプライドを持ってやるのが大切だと伝えている。今の人たちは、自分の人生だからって考えている人が多い様に感じる、利己主義ではなく、利他主義になるような考え方をしなければならないと伝えている。

C 委員 今までの職員は、利用者様が一番で時間が過ぎても喜ばれるのであればという

思いで仕事してくれていたが、今は時間、休み、給料となってきた。それも大切な事ではあるが、そういう人達同士が集まると、マイナスな方向へいってしまいがちである。

利用者の為という人たちが減ってきている。何か、利用者と楽しい出来事やいい事があれば介護は続くのではないかと思う。

※次回の委員会開催日の日については、3月を予定している。

卒業生及び在学者状況

1. 令和6年度卒業生就職状況

	卒業生数	就職者数
介護福祉学科2年	12名	12名

2. 就職先内訳

就職先	人数
特別養護老人ホーム	3名
障害者支援事業所	1名
居宅サービス事業所	2名
医療機関	6名
計	12名

3. 令和7年度在学生数（令和7年8月1日現在）

	1学年		2学年	
	男	女	男	女
介護福祉学科	9名（0名）	13名（7名）	12名（0名）	15名（4名）
	22名		27名	

※（ ）内数字は留学生数

4. 令和6年度の国家試験受験者、合格率

受験者人数	12名（内留学生6名）
合格人数	11名（内留学生5名）

※（ ）内数字は留学生数

その他

・介護職員実務者研修科（通学生）

令和7年1月23日～令和7年7月22日 8名 修了

令和7年7月24日～令和8年1月23日 15名 在学中

・実務者研修（通信課程）

5月より開講 32名（令和7年8月1日現在）

令和 6 年度福祉と文化特別授業実績

実施日	講義名	コマ数	対象学年
2/7（金）	着付け	1 コマ	2 年生
	ヘア・メイク	1 コマ	2 年生
2/12 水)	専門性の展開	1 コマ	2 年生
	園芸	1 コマ	2 年生
2/13(木)	昭和史	1 コマ	2 年生
	昭和の歌	1 コマ	2 年生
	卒業生との交流	2 コマ	1 年生・2 年生
2/18(火)	普通救命講座	2 コマ	2 年生
	口腔ケア	2 コマ	2 年生
2/20(木)	介護予防	2 コマ	2 年生
2/26(水)	職業倫理	1 コマ	2 年生
合計		1 5 コマ	